

新 TNM 分類における主気管支への浸潤に関する研究

研究責任者) 国立がん研究センター東病院 呼吸器外科
科長 坪井正博

研究の概要：

今回、肺がんの病期分類が改定されるにあたり、国立がん研究センター東病院での気管支浸潤を認めた肺がんに対して手術をうけた患者さんのデータを用いて、予後への影響を明らかにして T2 相当は適当であるかを検討することを目的としております。

研究の意義：

肺がんの病期分類は、手術後の治療方針に大きく影響を与えます。それによって再発や予後も変わってくる可能性があります。

成熟されたデータベースを用いることにより、国立がん研究センターでの気管支浸潤の評価を行い、再発や予後を含めて、T2 が適当かどうか研究する意義があると考えます。

目的：

肺がんの気管支浸潤に対する予後への影響を明らかにし、新 TNM 分類において T2 相当は適切であるかを検討することを目的としております

方法：

1997年1月から2014年12月までに完全切除された主気管支浸潤を認めた肺がん患者さん10人を対象としております。対象患者さんと、同時期に完全切除された肺がん患者さん3379人と比較しました。対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集しますが、情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究登録番号を使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しない

ようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 大森 智一

FAX 04-7131-4724/TEL 04-7133-1111